

回生 ニュース

K a i s e i N e w s



社会医療法人 峰和会

98号

2018.1月発行

発行／社会医療法人 峰和会
編集／鈴鹿回生病院
所在地／鈴鹿市国府町112番地の1
TEL／059-375-1212
FAX／059-375-1717
URL／<http://www.kaiseihp.com>
編集協力／TCKnagoya



社会医療法人 峰和会
理事長 長谷川 静生

迎春 2018



あけましておめでとうございます。

安倍内閣2度目の総選挙で締め括られた2017年でありました。今年は医療界にとって大変重要な様々な制度の改正と評価の時期に当たります。選挙戦には少子高齢化問題、消費税の用途変更問題をはじめ北朝鮮に関わる国の安全保障問題等々、課題は多く活発な政策論争を期待しましたが、結果はご承知の如く一時期の選挙前予想に反して与党自民党の圧勝に終る結末でした。何よりも私達にとっては4月から実施される介護報酬、診療報酬の同時改定論議が大いに気にかかるころでしたが、泰山鳴動して大したものとは出なかった感が致します。

昨年11月、以前より計画準備して

いました地域医療支援病院の承認をいただきました。職員一同の長年の努力の成果ですが、基幹病院としての自覚をこれまで以上に持って一般診療、救急医療、専門医療それぞれの分野で診療連携を進め、地域に情報を発信できる開放された医療施設を目指す努力をして行かなければならないと思っています。

昨年9月三重大学脊髄末梢神経低侵襲外科学講座より水野正喜教授を責任者としてお迎えし、脊椎、脊髄センターを開設いたしました。これも地域医療の支援に大いに役立つ事と考えております。水野教授は卓越した手術手技で圧倒的な短時間手術を実現され多方

面で活躍されておられます。先生の招聘による同センターの設立は、高齢化に伴い今後さらに増加するであろう患者さんは勿論、回生病院の診療部門の大きな柱でありますスポーツ障害に伴う、若者も含めた多くの脊椎脊髄患者にとって福音となる事と確信をしております。

勝海舟の言葉に「人は首を回して周りを見ることは出来るが、時に首を伸ばして先を見るのが大事」とあります。変化の速い世の中ですが取り残されぬよう、未だ十分に周りさえ見ること出来ませんが一寸先を見る努力を忘れず2018年戌年を進んで参りたいと思います。



両院長より新年のご挨拶

地域医療支援病院としてのスタート

新年あけましておめでとうございます。

皆様、良い年をお迎えのことと存じます。しかし、新たな年を迎えたということは、また少子高齢化が進んで、団塊の世代が75歳以上となる2025年が近づいてきたということでもあるわけです。そして、医療界では国による改革と病院側によるその対策がますます推し進められることでしょう。

鈴鹿回生病院では、昨年1月に一部の病床機能を地域包括ケア病棟に変更し、看護基準7対1の急性期病棟323床と地域包括ケア病棟56床となって地域医療にいつそう貢献できる体制に致しました。さらに、11月には地域医療支援病院の認定を受けることができました。当院はこれまで、二次輪番病院、がん診療連携推進病院、災害医療支援病院などの役割を担っていましたが、地域医療支援病院となって迎えた本年は、これまで以上に地域に根ざした、地域の皆様のための基幹病院として医療の提供を行っていきたいと思っております。そして、地域医療を担うのみならず、当院の特徴である専門医療の提供にも尽力して、鈴鹿亀山地区の地域医療構想・地域包括ケアシステムに貢献できればと考えております。

地域包括ケアシステムとは、地域に生活する患者さんの住まい・医療・介護・予防・生活支援を一体的に提供するためのケアシステムであり、住み慣れた地域で自分らしい生活を人生の最後まで継続できるよう、各市町村の地方行政単位で構築していくためのものであると聞いております。当院といたしましても、直接的に支援させて頂く病院での医療活動以外にも、災害時の地域支援や市民講座、健康セミナー、桜フォトコンテスト、サマーコンサート、クリスマスコンサート、シティーマラソンでの医科学相談のようなイベント開催などを通じて地域の皆様と交流を持たせて頂き、少しでもこのケアシステムに貢献できればと考えております。

また今年は、6年に一度の診療報酬・介護報酬同時改定の年にあたっております。当院にとっても厳しい改定になることが予想されます。しかし、「地域と共に歩む病院」を続けていくため、職員全員力を合わせて、乗り切っていく所存でございます。どうぞご指導ご支援の程よろしくお願い申し上げます。



鈴鹿回生病院
院長
加藤 公

少子高齢化へ向けて

新年あけましておめでとうございます。

新年を迎え、皆様も良いお年をお迎えのことと存じます。しかし、あまり浮かれてばかりいるわけには参りません。それは、いよいよ少子高齢化の波が間近にせまって来ているからです。団塊の世代が次第に高齢化してきておりますが、それに引き換え世の中を支えてくれるはずの若者人口が、近年の出生率の低下により、減少して来ております。医療や介護の需要はますます大きくなりますが、支えるべき資源や費用を確保していかなければなりません。各地域で医療や介護をどうやって賄っていくのか、地域医療構想の中で議論されております。回生病院は昨年地域医療支援病院に認定されましたので、附属クリニックも地域での役割をしっかりと果たせるように、一緒に歩んで行くつもりでおります。また、これまでと同様に、当院の特徴であります専門的医療もよりいっそう充実させ、患者さん中心の診療を行って参りたいと思います。

待ち時間が長過ぎるとの厳しいご意見をいただくこともあります。丁寧な診療も心がけておりますので、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

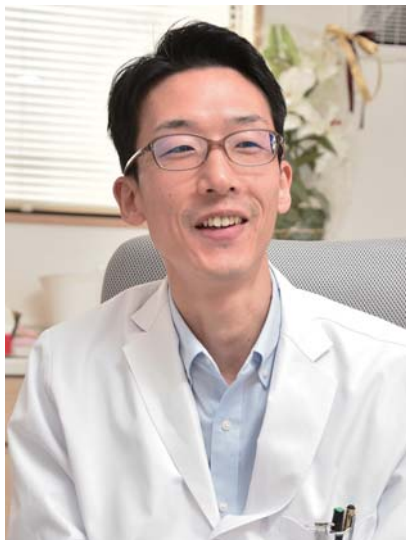
4月には、診療報酬と介護報酬の同時改定が行われますが、職員一丸となって進んで参りたいと思っておりますので、どうぞご指導ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



鈴鹿回生病院附属クリニック
院長
田中 公

連携医療機関紹介

どうでんクリニック



▲ 道傳 整院長

昨年9月に開院しました

どうでんクリニックは創徳中学校の向かいにあります。院内は全てバリアフリー。キッズスペースもありお子様連れからお年寄りまで幅広い年齢層に優しい造りになっています。



院長の道傳 整先生は、筑波大学医学専門学群をご卒業後、聖隷浜松病院にて初期・後期研修を経験されました。その後、信州大学、相澤病院などの医療機関で神経内科医としてキャリアを積み、平成29年（2017年）9月この地に開業されました。もともと岐阜のご出身で、ゆくゆくは東海地方に戻りたいと思っておられたという先生。開業の経緯をうかがうと「私の地元、もしくは妻の地元で開業したいと考えていました。妻の地元が鈴鹿市なのでこの街には開業前から何度も来ておりました。風光明媚なこの環境で子育てもしたいとの思いから、この地に開業しました」。現在先生を筆頭に看護師4名と事務5名、計10名体制で診療をおこなっています。

神経内科専門医です

内科全般はこれまでいろいろな病院で研鑽されてきた先生ですが、ご専門は神経内科です。対象とする疾患は、脳卒中、認知症、パーキンソン病をはじめとする神経難病など、かなり幅広いのだとか。「神経内科は、主に脳、脊髄、そこから出る末梢神経、筋肉、こういった臓器を専門に診る内科の専門領域で広い範囲の疾患を扱います。たとえば脳では脳卒中、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、認知症、頭痛、てんかんなどが代表的で、脊髄に関しては、頸椎症やそれに起因するしびれ、神経痛などを扱います。頭痛、ふらつき、めまい、しびれなどの症状があればご相談ください」。

力を入れている診療

内科全般、生活習慣病の治療をはじめ、各種予防接種、健康診断も広く受け入れているどうでんクリニック。最近では、睡眠時無呼吸症候群の簡易検査にも力をいれているそうです。「なぜこれを行うかというと、高血圧でなかなか血圧が下がらない方や、慢性的な頭痛を抱えている方の中に、結構な割合で睡眠時無呼吸の方がいらっしゃるんです。そういった方々を総合的に診ていきたいと考えています。これを放っておくと脳卒中、心筋梗塞のリスクが高まってしまいますので、早い段階で診断と治療を行い将来の合併症を防ぎたいと考えています」。「また、認知症の治療にも力を入れています。認知症は大きく①加齢によるもの忘れ②MCI（軽度認知障害・認知症予備軍）③認知症の3つの段階に分かれます。原因および人にもよりますが、適切な運動や栄養、脳を活発に動かすなどの習慣のある方は、MCI（軽度認知障害）の状態から正常に戻る方もいらっしゃいます。その一方で、年間約10パーセントの方が認知症に移行してしまうのです。私

DATA

TEL 059-382-2111

住所

三重県鈴鹿市三日市町1962-1

診療科目

●内科●神経内科
●もの忘れ・頭痛専門外来

診療時間

午前／9時00分～12時00分

午後／3時00分～6時00分

※ 3時～4時は、予約優先
（もの忘れ・頭痛専門外来）

	月	火	水	木	金	土	日
午 前	○	○	○	○	○	○	×
午 後	○	○	×	○	○	×	×

休診日

水曜午後、土曜午後、日曜、祝日



としては、MCIの方を早い段階で拾い上げ、その方に対する生活指導であったり、認知症に進んでしまった場合の治療の導入を早期にできればと思っています。ご家族が様子を見ているうちに進行してしまったり、いざ来てみたらかなり重症ということもあります。是非気軽にご来院ください。対応が難しかったり、より詳しい検査が必要な場合などは、基幹病院へ迅速に紹介させていただきます。なるべくその方が地元で長く幸せな生活が送れるようサポートしていけたらと思っています」。今後も、更なるご活躍を期待しています。



認知機能低下の一番の原因は加齢です。

加齢以外には...

- ①神経変性疾患:アルツハイマー型認知症など
- ②脳の病気:脳卒中、正常圧水頭症、慢性硬膜下血腫など
- ③生活習慣病:アルコール過剰摂取、高血圧、糖尿病、メタボなど
- ④精神疾患:うつ病、統合失調症など

ウォーキングなどの有酸素運動を継続的に行うことや生活習慣を改善することで、認知機能低下の進行を遅らせることが可能といわれています。



予防とケア



生活習慣の改善

- 食事(塩分を控える)
- 運動(有酸素運動)
- 禁煙
- ストレス



有酸素運動

- ウォーキング
- 自転車
- ヨガ
- 水泳



発信@

栄養管理室

管理栄養士
田川久美子



●もち麦(大麦)

大麦は実と穎(米のもみ殻のような皮)が取れにくいものを皮麦(二条大麦、六条大麦)、取れやすいものをはだか麦(六条はだか麦)に分けられます。小麦との違いはグルテンというたんぱく質の含有量で、大麦は少なくバサバサして、パンや麺作りには不向きです。

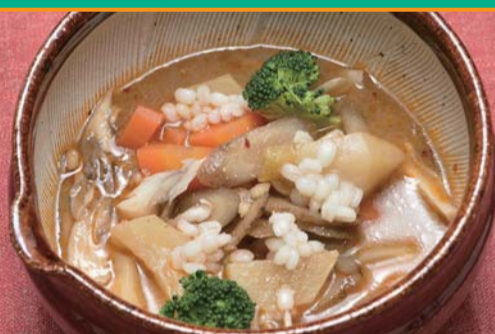
もち麦ははだか麦の一つの品種で、βグルカンという水溶性食物繊維がやや多く含まれ、糖質や脂質の吸収を抑制してくれる作用が期待され、生活習慣病には欠かせない栄養素です。

●もち麦の取り入れ方

白米には水溶性食物繊維がほとんど含まれないため、もち麦をお米に混ぜて炊くほか、スープに入れたり茹でてサラダにのせたりして、摂りにくい水溶性食物繊維を補いましょう。

ピックアップ食材
もち麦(大麦)

もち麦入り



冬野菜たっぷりのピリ辛味噌汁

【材料】(4人分)

もち麦	大2杯
にんじん	100g
かぶ	100g
ごぼう	100g
まいたけ	80g
ブロッコリー	100g
出し汁	3Cup
A 豆板醤	小1杯
ごま油	小2杯
B ミックス味噌	大2杯
しょうゆ	小2杯
酒	大1杯
みりん	大1杯

【作り方】

- ① にんじん、かぶ、ごぼうは食べやすい大きさに切っておく。
- ② まいたけはほくしておく。
- ③ ブロッコリーは小房にわけておく。
- ④ 鍋にAを入れて中火で炒め、①の野菜を加えてさらに炒める。
- ⑤ 出し汁を加えたら、もち麦を加えて20分ほど煮る。
- ⑥ まいたけとブロッコリーを加えひと煮立ちさせ、Bを加えて味をととのえる。

【栄養成分】1人分

エネルギー	120kcal	脂質	11.1g	食物繊維	5.6g
たんぱく質	17.5g	塩分	1.1g	(うち水溶性繊維)	1.7g

『地域医療支援病院』

に承認されました

当院は、平成29年10月19日付けで

三重県知事より、「地域医療支援病院」の承認を受けました。

今後により一層、地域の医療機関と積極的に連携・協力を図り、皆様が安心して暮らすことのできる地域づくりに、貢献してまいります。

Close-up 1

地域医療支援病院とは……。

紹介患者さんに対する医療提供、医療機器等の共同利用や研修等を通じて「かかりつけ医」を支援し、地域医療体制の中核を担う病院として、都道府県知事から承認された医療施設のことです。

地域医療支援病院の役割と地域連携

Close-up 2

地域医療支援病院の役割

地域医療支援病院は、以下の4つの役割を担います。

- 地域の医療機関からの紹介患者さんに対する医療の提供
- 医療機器や病床を地域の医療機関と共同利用
- 救急医療の提供
- 地域の医療従事者等への研修の実施

Close-up 3

かかりつけ医の重要性

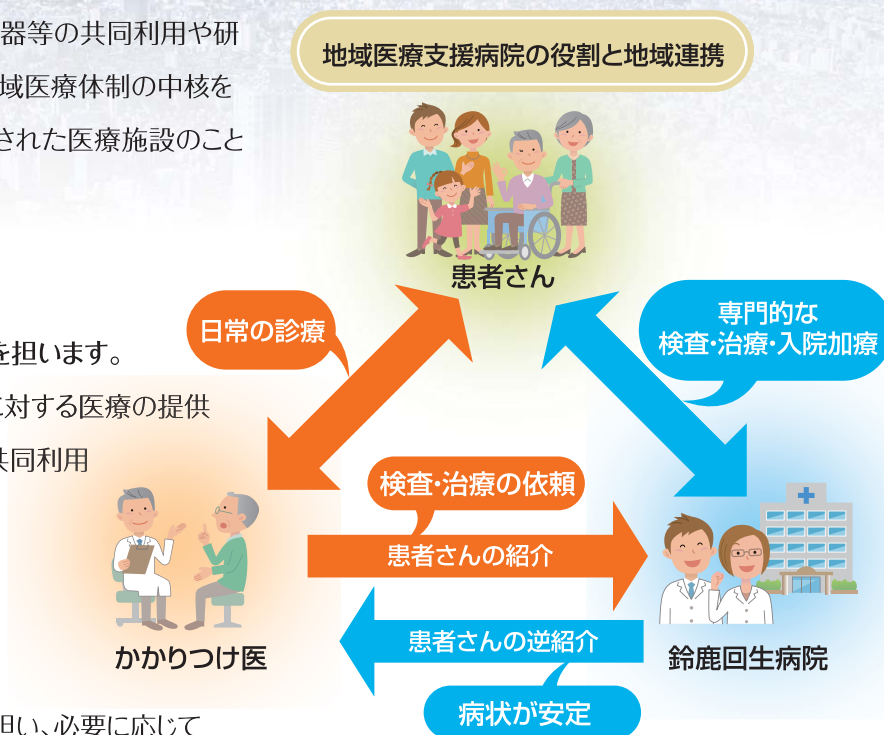
かかりつけ医は皆様の日頃の健康管理を担い、必要に応じて適切な専門病院を紹介してくれます。そして、専門病院での検査や治療後、病状が安定し通院治療が可能になれば、再びかかりつけ医が患者さんの身近な存在として適切な診療にあたります。

Close-up 4

紹介状(診療情報提供書)をお持ちください

当院を初めて受診される場合は、医療機関(病院・診療所など)からの紹介状をお持ちください。紹介状によって、患者さんの現在までの病状、お薬の内容など治療経過がわかり、治療を円滑に進めることができます。

また、当院から提供する紹介状によって診療内容をかかりつけ医に報告し、かかりつけ医の先生と連携して患者さんの症状に応じた治療に当たります。



第9回 亀山市脳卒中市民講座開催 ～亀山市文化会館にて～

11月11日(土) 第9回亀山市脳卒中市民講座を開催致しました。

当日は大勢の市民の皆様にご参加頂き、4名の医師により脳卒中に関する講演を行いました。終了後は市民の皆様からのご質問にお答えするコーナーを設けましたが、沢山のご質問を頂き、皆様の脳卒中への関心の高さがうかがえました。



第14回 健康セミナーを開催します 2月10日(土) 午後1時30分～研修医棟3階にて

皆さんお誘いあわせの上、ご参加ください。

参加無料

- 講話** ・ヘリコバクターピロリ菌について (内科医師：笠井 智佳)
・運動をやってみよう (健康運動指導士：深間内 誠)
- 内容** *骨密度・体脂肪率・血圧測定、簡単ストレッチ、健康相談など

鈴鹿シティマラソン

12月17日(日) 第20回鈴鹿シティマラソンが鈴鹿サーキットにて行われました。当日は医科学相談コーナーを設置、救護班に救急車を配置して、当院から専門医師をはじめ多くのスタッフを派遣し走者のサポートを行いました。



Christmas Concert '2017

12月16日(土) 恒例のクリスマスコンサートを開催しました。当日は職員によるハンドベル演奏、院内サークル「響」による三味線演奏や院内保育所「回生キッズ」の子供達によるダンスの披露が行われました。また、今回はソプラノ歌手として多方面でご活躍されている鷺山恵利子さんによるゲストコンサートが行われ美しい歌声を披露頂きました。



ほっと smile

看護部 「ホームページ」 「ブログ」 リニューアル



鈴鹿回生病院 看護部 |

検索

このたび、看護部の情報をより分かりやすく、お届けできるよう「ホームページ」と「看護部のブログ」をリニューアルいたしました。今回のリニューアルでは、見ていただいた方に、より利用しやすく分かりやすいサイトとなるよう、構成やデザインに工夫を重ねました。様々な情報を随時更新していきますので、どうぞよろしくお願いします！

見
に
来
て
ね
！
QR
コ
ー
ド
の
ブ
ロ
グ
だ
よ。



看護補助職員を募集しています。正職員2名

患者さんの日常生活援助、ベッドメイキング等を行って頂きます。経験のない方でも大丈夫です!! 病院見学も随時しております。お気軽にお問い合わせください。

担当：看護部 横田

TEL 059-375-1332(看護部直通)

編集後記

今回は「新年のご挨拶」を中心に、医療連携紹介などをお送りいたしました。皆さんから本誌へのご意見・ご感想・ご要望等がございましたら、広報委員会までお寄せください。

鈴鹿回生病院 広報委員会

〒513-8505 三重県鈴鹿市国府町112番地の1

TEL 059-375-1212 ■ mail:info@kaiseihp.com

病院の理念

生命への奉仕

病院の方針

- ▶ 地域の基幹病院として医療と健康の増進に貢献します
- ▶ 個人の尊厳を守ります
- ▶ チーム医療を推進し安全で高度な医療を提供します
- ▶ 将来を担う有能な医療従事者の育成に努めます
- ▶ 地域と連携し災害時救援活動を行います
- ▶ 働きやすく健全な病院運営に努めます